

第 64 回 日本生殖医療学会学術講演会・総会

登録番号:10301

兵庫, 2019.11.7-8

演題名:子宮内膜菲薄例に対する子宮内 G-CSF 投与の臨床的意義に関する検討

小宮 慎之介[1] 井上朋子[1] 川邊麗美[1] 浅井淑子[1] 姫野隆雄[1] 福田愛作[2] 森本義晴[1]

[1] HORAC グランフロント大阪クリニック

[2] IVF 大阪クリニック

抄録本文:

【目的】難治性不妊症の原因の一つとして、「子宮内膜菲薄」が挙げられている。以前より子宮内膜厚と妊娠率の関連は指摘されており、難治性子宮内膜菲薄症例への介入の一つとして子宮内 G-CSF 投与法が提唱されているが、その効果は一定の見解を得ない。そこで、子宮内 G-CSF 投与の臨床的意義を明らかにするため、自験例を検討した。

【方法】2017年1月から同年12月の期間に IVF 大阪クリニックおよび HORAC グランフロント大阪クリニックに通院中、ホルモン補充周期—凍結融解胚移植で単一胚移植（分割期、胚盤胞問わず）が実施された症例で、月経 13-14 日目の子宮内膜厚が 8mm 未満であったのは 133 症例であった。このうち、G-CSF 投与後胚移植（G-CSF 群）66 名、通常胚移植（非 G-CSF 群）67 名であった。カルテ情報を後方視的に集積し、胚移植時の年齢、月経 13-14 日目の子宮内膜厚、胚移植当日の子宮内膜厚、G-CSF 製剤使用の有無を交絡因子として、着床の有無をロジスティック回帰分析した。胚移植後 12-14 日目の末梢血 HCG > 25.0 (mIU/mL) をもって着床ありと判断した。本研究は施設内倫理委員会の承認を得て実施された。

【成績】月経 13 ないし 14 日目で子宮内膜厚 8mm 未満であった 133 例全体の年齢中央値は 41 歳、G-CSF 群 66 例の年齢中央値は 42 歳、非 G-CSF 群 67 例の年齢中央値は 40.5 歳であった。G-CSF の着床への効果をロジスティック回帰分析で年齢、胚盤胞移植、子宮内膜厚で補正し評価したところ、子宮内膜厚 8mm 未満の症例に対しては、全年齢群でオッズ比 < 1.0 となった。一方で、子宮内膜厚 7mm 未満の症例に限定して解析したところ、36 歳以上でオッズ比 > 1.0 となり、 $p > 0.05$  と有意ではないものの年齢の上昇に伴いオッズ比に上昇傾向を認めた。

【結論】子宮内膜厚が 7mm 未満で 36 歳以上の症例において着床改善効果が示唆された。今後さらに症例数を増やし、検討を重ねる必要がある。